

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北邦		
事業所名	グループホーム さらさの杜		
所在地	北海道函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	平成28年2月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171401540-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171401540-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域ボランティア14団体さんの協力で毎月の施設内清掃と利用者とのコミュニケーションの時間を設け、利用者は、施設で生活しながらも地域の様子を伺いながら生活出来ている。施設の菜園で、秋の収穫祭に向けてジャガイモ・かぼちゃ等を植え育て、秋にはご家族を交えて収穫祭を行っている。又、秋の文化祭に向けハーロウインかぼちゃ作り、穫れたハーロウインかぼちゃや利用者皆で作った作品を地域の文化祭に出展し、文化祭の見学を行う等、利用者個々の力を活かした支援を行っている。(毎年継続することによって支所から「今年も作品をお願いします」と声がかかるようになっている。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館市の太平洋側に面した旧南茅部町の安浦と川汲の境に、グループホームさらさの杜が立地しています。ホームは両方の町内会と交流があり、裏手には南茅部運動広場があります。ホームの周辺は山菜が豊富で利用者は春から秋にかけて山菜採りを楽しみながら自然の恵みを味わっています。菜園では各種の野菜と一緒にハロウインかぼちゃを育て、収穫後に利用者はそれぞれに顔を描いて町の文化祭に展示し、訪れる町民を和ませています。地元の学校の総合学習、職場体験学習の受け入れも積極的で、高校生と利用者がおやつ作りをして一緒に食べたり、小学生が校庭で育てたお花をプランターに入れて届けてくれるなど、地域との交流が盛んに行われています。職員は8部門ある委員会を中心に勉強会を開催して研鑽を積み日々のケアに活かし、利用者は自然豊かな環境の中で安らぎのある暮らしをしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホール、ユニット、相談室に掲示し全職員が意識して毎日支援にあたっている。	利用者の尊厳と有意義な生活のための支援を具体化したホーム理念を玄関ホールに掲示しています。5項目から成り立っている理念の具体的な内容をホーム内に掲示し、管理者と職員はこれを共有して実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの協力や地元の小・中・高校生と交流し(インターシップ・お祭り)つながりを大切にしている。	職員は町内会活動に参加し、町内会からはボランティアで餅つきに訪れています。小学校の総合学習、中学校と高校の職場体験学習を積極的に受け入れ、町の文化祭には利用者全員で作った作品とハロウインのおばけかぼちゃを展示し、町民を和ませています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの訪問時や運営推進会議の時に地域の方々へ認知症について説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施し、利用者さんの日常生活の様子(行事等を含む)を報告し、意見交換を行いサービス向上に努めている。	町内会の方、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て2ヵ月毎に開催しています。運営状況や施設行事の報告と利用者の生活状況を写真を用いて説明し、参加者から率直な意見をいただきながらサービス向上に活かしています。議事録は全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出時等で支所を訪問した際に情報提供したり、支所の方から(CW)来所時にアドバイスを受け、又地域振興課を訪問し担当職員の協力を得る等で協力関係を築いている。	毎月、函館市南茅部支所の担当者が函館市の広報誌を届けに来訪する時に、情報の入手や相談をしたり、アドバイスを受けています。定期的にケースワーカーが訪れ、利用者の状況報告や意見交換が行われ、協力体制を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、施設内研修会で勉強し、拘束をしないケアに取り組んでいる。(玄関の施錠については20時以降防犯のために施錠しています。)	身体拘束に関する基準を入居時に家族に説明し同意を得ています。研修委員会を中心にホーム内研修の議題とし、職員全員の意識の統一を図り、抑圧感のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、施設内の研修会で勉強し、全スタッフが理解しており、虐待の無い支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、施設内研修会で勉強し、制度についての理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時、入所前面接時、入所時の手続きの際に説明し、疑問点や質問を伺い十分説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や面会時、家族との交流会等に意見・要望等を聞き運営に反映させている。	年1回、家族アンケートを実施しています。家族の意見や感想の記載もあり、課題とアンケートの集計は職員全員で共有し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会義・業務会義・職員会議を開催し意見交換する機会を設けて運営に反映させている。	職員はアンケートの実施やユニット会議の中で意見や要望を表わせる機会があり、運営者は表出した課題を真摯に受け止めて改善に努め運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・実績を把握してやりがい等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会は毎月行い、施設外への研修の機会も案内し出来る限り参加し知識アップ、技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会主催の研修会にできるだけ参加し、学んだことは全スタッフに周知し、サービス向上に繋げられるよう努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接を行い、本人とコミュニケーションの時間を設け信頼関係を徐々に築き安心出来る様な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時、入所前面接時で家族とコミュニケーションの時間を設け、困っていることや今後についての意向を確認し、信頼関係を築き安心して頂ける様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネからの情報や入所前面接時、本人・家族を交えたカンファレンスの中で意向を確認・課題を見極める等で支援内容を検討している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の生活歴等を把握し、人生の先輩として敬意の気持ちでみんなを支え合い和やかな関係を築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を定期的に報告し、行事参加も呼び掛け家族交流の場を大切にしている。プラン作成時は家族カンファレンスを持ち共に支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各地域からのボランティアやお祭への参加で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	職員は利用者が今まで培ってきた従来の関係を大切に支援しています。知人、友人の訪問があり、馴染みの美容室には職員が送迎し、墓参りは家族が対応しています。町内会の祭りの神輿行列にご祝儀を用意し、奉納は利用者が担当しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレク等、全員で顔を合わせる時間を設けスタッフを交えて交流し孤立の無いよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で契約が終了した後もこれまでの関係を大切に、支援を必要とする利用者や家族には、気軽に声を掛けて頂き相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら希望・意見等ないか確認している。	管理者と職員は寄り添いながら利用者の要望を理解したり、表情や動作などで思いや意向を把握しています。困難な時には家族から情報を得て支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に基本情報を作成し、その情報を職員間で共有することで利用者個々の生活歴把握に努め、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子は経過記録に残し、情報を共有し、一人ひとりの心身の状態や有する能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、本人・家族・スタッフの意見を基に現状に即した介護計画を作成している。	介護計画原案を基に利用者と家族の要望を取り入れ、担当者会議の中で家族、職員、計画作成担当者と協議して介護計画を作成しています。計画更新時には主治医の意見書と新たな課題の有無を検討し、状況の変化により随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を経過記録に残し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況把握し、御家族の希望に応じた柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室を利用したり、ボランティアや学生さんとの交流を図り、又、地域イベントの参加等豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診、月1回の定期受診の他、体調不良時は都度主治医へ連絡し、対応の指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう支援している。	町内の医療機関をかかりつけ医としている利用者が多く、定期受診は職員が支援しています。専門外来や遠方の受診は家族が対応し、状況により職員が同行することもあります。夜間対応も行い適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置は無いが、管理者・介護職員が主治医・看護師へ直接連絡し状況報告する事で指示を仰ぐ等、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には基本情報・日常生活の情報を提供し、主治医・看護師・ご家族を交えたカンファレンスを実施等で病院関係者との関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事業所の『看取りに関する指針』については入居時に説明し同意を得ている。実際の看取りの時期に入った時はご家族・主治医・スタッフを交えたカンファレンスを何回も持ちチームでの支援に努めている。	入居時に重度化に伴う指針を説明し、家族の同意を得ています。医師の判断により、終末期を迎えた時には家族の意向を最大限尊重し、主治医とカンファレンスを繰り返しながらチームで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応時の勉強は定期的に行い、緊急時に備えた取り組みを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防や地域住民の方に協力を得て実施し地域との協力体制を築いている。	消防署立ち合いの下、日中と夜間想定訓練を実施しています。町内全戸に備え付けられている防災無線で瞬時に地域消防団に伝わるシステムがあります。避難場所や避難経路は職員間で共有し、備蓄品も用意されています。	防災無線や地元消防団など、地域として災害対策は確立されていますが、高齢者のホームとして職員だけの誘導や避難の限界を踏まえて、訓練時には地域の方々の協力を得ることを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇向上と人権擁護についても施設内研修会で勉強し常に丁寧な対応が出来る様気を付けている。	職員は利用者一人ひとりに応じた声かけをし、羞恥心に配慮し、尊厳と誇りを損なわない対応をしています。研修委員会は接遇について勉強会を実施し、職員間で理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動をする前に本人の希望を聞く等、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の生活ペースを大切に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみについては本人の意向を確認し楽しめる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに合うもの・希望のあるもの・季節感が見えるものを提供。準備や後片付けもできるだけ一緒に、そこには会話・笑顔もあり、楽しんで行う様支援している。	菜園で収穫した野菜、近くで採れた山菜、家族が差し入れた魚介類などを食材にすることもあります。利用者は芋の皮むきや山菜の処理などの調理の作業に職員と共に携わっています。職員は利用者と同じテーブルを囲み楽しく食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量、栄養のバランスを考慮した支援をしている。体調不良時等は早期に主治医に報告し体力低下にならない様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・間食後・就寝時等は毎日欠かさず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、極力トイレで排泄の継続が出来る様支援している。	本人の排泄パターンを把握しさりげなく声をかけて排泄を促し、日中は全利用者がトイレを使用しています。夜間は個々に合わせてポータブルトイレの使用や定期的に衛生用品を交換しています。便失禁はペットボトルのミニシャワーで清潔保持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や運動等を取り入れた生活を心がけている。必要に応じて主治医に相談し、下剤等で便秘のない生活を支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの生活習慣を尊重し、本人の希望や状態に応じた支援をしている。	浴室は広くて明るく壁の上層部は「ヒバ」の木材を使用しているので温もり感があります。週2回の入浴を目安にしていますが、お風呂大好きな利用者が多いので、希望に応じていつでも入浴できる体制を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	運動やレク等を通し、生活リズムを大切にしながら、個々のパターンを把握し休息時間を設けるなど、心地よい眠りにつける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容については処方時にスタッフに申し送りし、誤薬の無いようしっかり確認し、服薬後の観察も怠らないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々のできる事できない事を把握し、できる事(洗濯干し・洗濯たたみ・食事の下ごしらえ・食器拭き等)については手伝って頂く等で、個々の力を活かした生活支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のADL状況や希望にもありますが、四季に応じて、花見・地域イベント参加・ドライブ・ショッピング等に出かけられるよう支援している。	お天気の良い日は、菜園の手入れ、山菜採り、ショッピング、運動広場までの散歩など、一人ひとりの出来る事を見極めながら日常的に外出を支援しています。歩行困難な時は、玄関先で外気に触れ気分転換やストレス解消に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者には、管理して頂き、ショッピングなど一緒に出かけ、支払いについてはスタッフも確認の協力をしてお金を使える様な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望も含め、電話をかける・手紙については代筆をする等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはイスやソファの設置、又季節ごとに装飾品を飾る等、季節を感じながら居心地良く過ごせる様支援している。	広々とした玄関ホールの一隅には観葉植物や金魚の水槽と犬の置物があり、利用者が描いたお花の絵が多数展示してあり、ギャラリーの雰囲気を醸し出しています。利用者は季節ごとに変える装飾を楽しんで安心して寛いでいます。吹き抜けの居間は開放感があり、畳の小上がりは安らぎ感を与えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関ホールに談笑できる空間を設ける等、気が合う利用者同士で過ごせる様、空間作りの工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ家具等を持参して頂き、本人と家族の意向を取り入れる等配置を工夫し居心地良く過ごせる様支援している。	居室の入口には手作りの作品があり、備え付けの箆笥と洗面台があります。在宅当時の家具や好みの写真と日用品などが持ち込まれ、それぞれに過ごしやすく工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る所は行ってもらい、出来ない部分についてはどのように支援したらよいか話し合いし、自力に向けた支援に努めている。		